

岩手大学附属動物病院・伴侶動物部門
研修医・研修プログラム

基本2年の研修プログラムとする。希望があれば3年目も2年目と同じプログラムで継続が可能。なお、開業動物病院等での勤務経験が1年以上の者で、十分な技術、知識があると認められる者は、2年目プログラムからの開始も可能。

1年目：診療に関わる基礎的な業務を経験するとともに、さまざまな診療領域を体験し、自らの目指す獣医師について考える。

・前期半年

内科診療科3ヶ月、外科診療科3ヶ月のローテーションを行う。

それぞれの診療科においては、2～3週間ごとに各教員の診療業務に随行する。時間があるときはその診療科の他の教員の診療をサポートする。

2～3回、担当教員の稟告聴取を見学したのち、自ら主治医となり稟告聴取から行う。

※飼い主には研修医であることを告げ、教員の指導を受けていることを説明する。

稟告を聴取したのちはまず自ら検査方針、治療方針を考え、その方針について教員と相談しながら診療を進める。

※手術、外科処置、内視鏡、生検などの習熟が必要な検査、処置、治療は教員の指導のもと見学あるいは実施する。

治療方針についても教員とのディスカッションを経て決定し、その説明も研修医が行う。初診の患者については紹介元に電話と報告書にて報告を行う（報告書は作成し、教員の添削を受ける）。

自分の担当した患者はローテーションで診療科が変更になるまで経過を責任をもって追う。

内科においては教員、学生とともに「症例まとめ」に必ず参加し、自らの担当した症例は自ら発表を行う。また、IVCにも参加し、最低1例は発表を行う。

外科においては外科のゼミ（木曜日か金曜日）に参加し、ゼミ発表（論文や症例）を行う

腫瘍症例の検討会（金曜日）には所属診療科を問わず参加する

・後期半年

前期に経験した診療科のうち、いずれかの希望する診療科を選択できる。ただし、複数の研修医が同時に同じ診療科を希望した場合には調整を行う可能性がある。

希望する診療科において、同様に2～3週間ずつ各教員の診療に随伴する。

担当教員の担当の初診について、前期と同様に診療を行う。

各診療科の症例検討には必ず参加する。IVCには診療科を問わず必ず参加する。

※※1年の研修の間に、可能な限りいずれかの学会で症例を1例発表を行う（東北地区三

学会など)

2年目：自らの選択した診療を中心に、専門性を獲得するための研修を行う。

・通年

1年目後期に選択した診療科のうち、特に自身の興味がある分野を中心に研修を行う。

曜日ごとに随伴する教員を決める。

時間が空いている時には、同じ診療科の他の教員の診療をサポートする。

自ら選択した分野の初診を積極的に受け持ち、経験を積む。

担当した症例の入院管理を学生とともにやる

※教員は研修医にある程度の処置、検査、(手術)を指導していくよう心がける。

各診療科の症例検討には必ず参加する。IVCには診療科を問わず必ず参加する。

学会発表を1症例は必ず行う。

3年目以降：

2年目と同じ研修を行う。

その他

学生への教育を心がける